

山形県立荒砥高等学校 創立72周年を迎えて

放映中の朝のNHK連続テレビ小説、通称朝ドラ『エール』は、東京五輪の『オリンピック・マーチ』や全国高等学校野球選手権大会の大会歌『栄冠は君に輝く』、そして『モスラの歌』など、数々の名曲を生んだ、福島県出身の 小関裕而 氏がモデルです。彼は、幼少の頃から音楽に親しみ、ほとんど独学で作曲の道を志し、戦前から戦後の激動の時代に、多くの曲を送り出すことによって人々の心をつかみ、人々をそして日本を応援し元気にしてきました。作曲のジャンルは幅広く、数多くの社歌や校歌にも及んでいます。本校校歌の作詞者 大木惇夫 氏とコンビを組んだ作品もあります。

このたびは、その校歌に焦点を当てたいと思います。

現在の校歌が制定されたのは昭和30年6月のことです。前述の、合唱曲『大地讃頌』などを作詞した大木氏が、作曲家 乗松昭博 氏に作曲を頼んだと、本校あての手紙に記載されています。この両氏によって本校校歌は作られました。その歌詞は、温かく包み込むような荒砥の自然の中で学ぶ生徒たちに、勇気と希望を抱かせ、志を刺激する言葉に溢れているように思います。

また、弾むような明るく軽快な曲は途中でリズムが変わり、より一層この校歌を特徴づけています。

さて、この校歌の歌詞ですが、意外と分からない言葉や聞き慣れない言葉があります。意味を探っていたところ、本校の国語教員と生徒による校歌の現代語訳などを、音楽教員の本田先生に提供していただきました。資料の中には、大木氏からの手紙や電報、直筆と思われる校歌の譜面の写しもありました。以下に校歌歌詞とその現代語訳を示します。

<p>三 白鷹山の あさぼらけ 望みにみつる 荒砥 荒砥 わが據る窓の 明るさよ 道はあり 茨せくとも 誠つくして 美わしく 平和の虹を 懸けんかな</p>	<p>荒砥高校歌</p> <p>一 さみどり香る 稲荷台 知徳を磨く 荒砥 荒砥 わが学び舎の 尊さよ 啓しあり 高きところに 努め励みて たくましく 真理を星に 探ねばや</p> <p>二 たゆまぬ流れ 最上川 心を激ぐ 荒砥 荒砥 わがはらからの 清けさよ 標あり 嵐ふくとも 睦み扶けて 芳しく 文化を花と 咲かせばや</p>
<p>三 白鷹山の朝焼け空 望みに満ちている 荒砥高 荒砥高 私の頼る窓は明るく 光に満ちている 行く手を阻む茨のようなどんな困難があっても道はある 一生懸命 誠実に進む姿はなんと美しいことか 空に七色の平和の虹を懸けよう</p>	<p>校歌 現代語訳（国語教員による）</p> <p>一 若草が香る 稲荷台 知恵と道徳を学び磨く 荒砥高 荒砥高 わが学校のなんと素晴らしいことか 高い目標に向かって教え導き ことを成し遂げようと力を尽くし、活力が満ち溢れている 正義とこの世の真理を追求し続けよう</p> <p>二 途切れることのない流れの最上川 自らの心の汚れを洗う 荒砥高 荒砥高 我が友の清廉潔白さよ 嵐吹くどんな困難があろうとも 私には目指す目標がある 互いに助け合うことの清々しさよ 文化を花と咲かせよう</p>

どうでしょう。言葉の意味や情景がさらに自分の中に入ってきたでしょうか。この現代語訳が、大木氏の表したかったこと、伝えたかったことをすべて言い尽くしていないかもしれませんが、より鮮明に校歌が見えてきたように思います。

「白鷹町内の校歌を残す会」が、『学び舎のうた～白鷹～』を平成16年に発行しています。そこには統合前の学校を含めた小・中・高の校歌と、校歌に託した作詞・作曲者の想い、卒業生の思い出そして当時の在校生の想いなどが収められています。

荒砥高校の在校生の代表は、『歌志(かし)一歌に込められた志』と題して、次のように想いを表しています。

「(前略) 荒高校歌の特徴は、明るく弾む感じの曲調と、曲の拍子が変わるところだと私は思います。一曲を歌う間に、四分の三拍子が途中から四分の四拍子になり、最後にまた四分の三拍子に戻る。それに気が付いた時、面白い、変わった校歌だ、と思ったことを覚えています。(中略) そして歌詞がとても一途で真っ直ぐなことに気が付きました。— 学び舎で知徳を磨き真理を求め、最上川の如く心を漱ぎ清く、そして茨の道も誠を尽くして美しく —。最後は『平和の虹を懸けんかな』という希望の言葉でとじられています。私は荒砥高校に入学したことを誇りに思います。そして校歌を歌う度に、歌志を心にとめ、これからも歌っていきたいと思います。」

当時の在校生の彼女の言葉には、校歌の歌詞の中に志、すなわち、心に思い決めた目的や目標、心の持ち方や信念を感じ取り、荒高を誇りに思うとともに、校歌を励みとし希望を持って生きていこうとする気概を感じます。

このように、校歌は、そのメロディーと言葉が相まって歌った者へ勇気や元気を与え、希望を持って前に進もうと励ましてくれます。そしてそれは、卒業後一層力を発揮します。青春時代に共に声高らかに歌った校歌。一人一人を励ます応援歌になるとともに、皆で歌えば青春時代にタイムスリップし、純粋で一途な気持ちに立ち返り、前に進もうとするエネルギーにもなることでしょう。

同輩、先輩、後輩そして先生方と共に過ごした時間と空間は、確かにこの学び舎にあります。そして、その時空と友と恩師との思い出は、将来どこに行っても何をしていても、心のどこかにしっかりと刻まれています。

荒高校歌に込められた想いを、全校生徒と教職員で共有し歌う。なんと清々しいことでしょう。しかし、今はお預けです。世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が収まるまでは我慢です。それまでは、校歌に込められた想いをしっかりとかみしめてください。そして、この逆境に立ち向かう勇気と元気をもらってください。

皆さんに荒高校歌をエールとして送ります。

創立記念式式辞に代えて

令和2年5月1日

山形県立荒砥高等学校
校長 海和 雅人

